

あ と が き

令和発祥の古都・だざいふと太宰府観光への展望 ～まほろば太宰府の文化・教育観光とまち・人・光づくり～

今回の第二次太宰府市観光推進基本計画の目標すべき太宰府観光の姿は「住まう人も、訪れる人もともに慶びを分かち合える“令和の都 だざいふ”～太宰府観光への挑戦～」です。

丑年生まれの私は、物心つく前の太宰府天満宮参詣が最初の観光体験であり、平成 27(2015)年の太宰府市での日本観光学会の全国大会開催以来は、太宰府市にある大学の教職員、太宰府市民、太宰府観光協会会員としても太宰府観光とご縁を結び、第一次計画、計画見直しに続き、人生五十周年記念の節目に今回の計画策定に関わる機会を頂戴し、とても光栄でした。

筑紫万葉のふるさと太宰府に今も生き続ける筑紫万葉の文化、新時代「令和」の典拠となった万葉集、大宰帥・大伴旅人邸で開催された梅花の宴で詠まれた「梅花の歌三十二首」の1つに「万代に、年は来経とも、梅の花、絶ゆることなく、咲きわたるべし」の和歌があります。今年の「梅花の宴」でエルサルバドルとオーストラリアの外国人留学生と一緒に美しく心寄せ合いながら平和への願いを込めて朗詠しました。「いつの時代でも梅の花は絶えることなく咲き続ける」という生命と季節の巡り合わせ、永遠の繁栄と幸福を願った和歌です。

太宰府天満宮境内にこの万葉歌碑があり、梅の花を愛でながら託した思いや言葉に宿る言霊と和魂が脈々と伝わり、古都太宰府の観光の象徴である梅の花や梅園、天神様・菅原道真公が愛した飛梅、名物梅ヶ枝餅の由来、梅上げ行事、梅の種納め所など、日本遺産「古代日本の西の都」の構成文化財の1つ、太宰府の梅文化として未来に受け継がれています。

この計画でも柱に据えた、新時代の観光まちづくりでも大切な要素、持続可能な観光、また、広域的な地域や多様な人々とつながる太宰府観光への道標は、令和発祥の古都・太宰府に宿る「筑紫万葉の文化」の再生・復興と活用など、太宰府の悠久の時代とご縁を今に活かす、歴史・文化遺産の魅力を体感し、修学旅行や研修旅行のように楽しく学び語らい合う旅、仲間との楽しい思い出や記憶で今に生き続ける文化観光「太宰府遊学」だと考えます。

そのためには、太宰府の地域の魅力、歴史・文化遺産のストーリーを学び、探究し、熱く語り合い、観光客と地元の人が対話し時めく、旅先の発見と出会いの感動につながる「感光」の力、太宰府観光による感動体験を通じ、観光や旅がもたらす感謝と幸福、慶びをともに分かち合える「感幸」に結びつける感性と太宰府愛を持つ「観光人財」の育成、観光によるまち・人・光づくり、学問の聖地・太宰府を拠点に観光教育と地域連携・交流促進が必要です。

今後は、「令和の都だざいふ」や日本遺産のご縁を活かし、筑紫野市、大野城市、春日市、那珂川市、筑紫地区や九州、全国各地と連携・交流する「大太宰府観光」の展開も重要です。

「まほろば太宰府」の観光が、百花の魁として幸先がよい梅の花のように、いつまでも綺麗な花を咲かせ、訪れる観光客と住まう人々、多様な観光関係者や観光人財とのご縁を結び、日本の観光の聖地として「太宰府観光」の栄光と栄華、多くの人々が楽しく集い交流し、感動する「慶祝の佳日」が未永く続くことを願ってやみません。笑門来福。ご縁と学恩に感謝。

竹川克幸(日本経済大学教授)

【参考文献】

- (1) 『語らんねおもてなしー観光・文化・教育・おもてなしー』第108回日本観光学会太宰府全国大会研究発表要旨集、2015年
- (2) 『新・観光ビジネス概論』日本観光学会・九州沖縄支部、マインド社、2021年
- (3) 竹川克幸「太宰府キャンパスネットワーク会議「太宰府遊学プロジェクト」～大宰府アカデミー・令和編・太宰府学が結ぶ学びと学校の地域連携」『都府楼』第54号、(公財)古都大宰府保存協会、2023年
- (4) 竹川克幸「地域連携・大学連携と計画行政～令和発祥の地 古都太宰府の文化・教育と人づくり」※日本計画行政学会九州支部第43回(太宰府)大会特集 高大連携研究フォーラム概要
- (5) 『JAPA九州』第46号、(一社)日本計画行政学会九州支部、2023年